

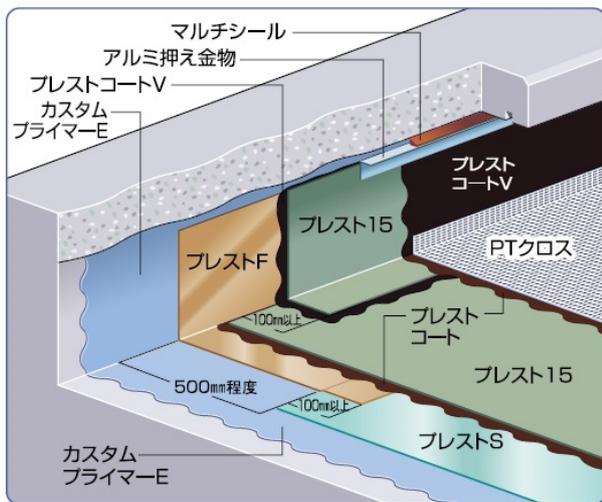


[審査証明番号/有効期限]	BCJ-審査証明-162/2026年9月13日
[技術の名称]	環境配慮型常温積層アスファルト防水工法「プレストシステム」
[依頼者(審査証明取得者)]	日新工業株式会社

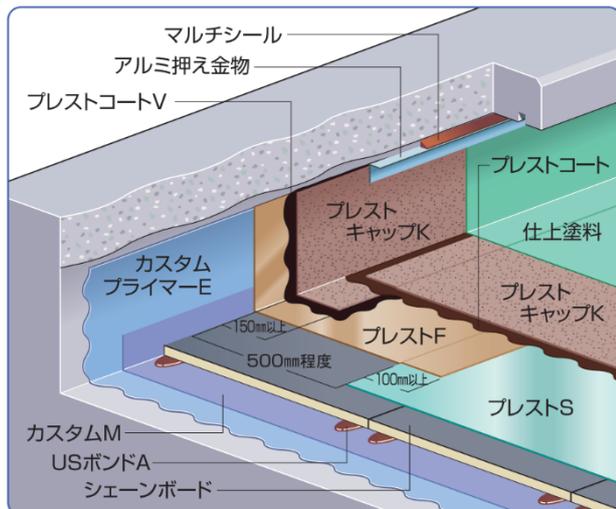
**[技術概要]**

本工法は、第1層目に粘着層付改質アスファルトルーフィングを粘着で施工し、第2層目の改質アスファルトルーフィングを湿気硬化型の1液常温改質アスファルト系塗膜防水材料を塗布しながら施工する常温工法であり、火気を使用しないで施工できる防水工法である。

**■保護防水工法例(PN-13仕様)**



**■露出防水工法例(PN-12V仕様)**



**[開発の趣旨]**

既存のアスファルト防水は、防水工用アスファルトを溶融釜で溶融させ、ルーフィングを積層して防水層を形成する工法である。その際には、溶融釜にて240～280℃程度にアスファルトを加熱溶融させるので、以下のような問題がある。

- (1) 火災・火傷等の安全・衛生上の問題
- (2) 燃料消費・二酸化炭素の発生及び臭気・煙等の環境上の問題
- (3) ルーフィング積層工程数に応じた防水層の重量増、使用材料及び作業工程数が多く作業効率等の問題

本工法は、既存アスファルト防水熱工法と同等の防水性能を有しながら、湿気硬化型の1液常温改質アスファルト系塗膜防水材料を使用して常温で施工可能な工法とし、火気の使用がないために、臭気・煙の発生が抑制され、作業者の安全及び作業環境・近隣環境に配慮でき、更に改質アスファルトルーフィングを使用することで、品質向上による工程削減・軽量化を図ることを目的として開発したものである。

**[開発目標および審査証明結果]**

本技術について、前記の開発の趣旨、開発の目標に照らして審査された結果は、以下のとおりである。

- (1) 既存アスファルト防水熱工法と同等の防水性能を有しているものと判断される。
- (2) 火気を使用しないことにより、施工時における燃料消費・二酸化炭素の発生及び臭気・煙の発生が抑制され、作業環境・近隣環境の改善が図れるものと判断される。
- (3) 既存アスファルト防水熱工法と比較して、作業工程数の削減及び施工の簡易化により作業効率が向上するものと判断される。

**[本技術の問い合わせ先]**

日新工業(株) 営業統括部屋上関連事業推進室  
TEL 03-3882-2571